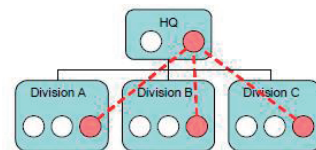


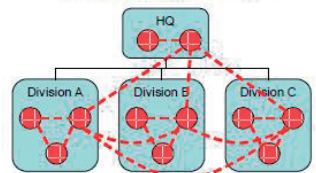
### 企業倫理プログラムの新概念と実態把握手法の開発

ビジネス倫理、技術者倫理への関心が高まっている。企業にとって、倫理的に不適切な企業行動は、企業の消長をも左右しかねない社会状況になってきている。しかし、その実態を的確に把握し、有効な手立てを講じてゆくことは、必ずしも体系化されているとは言えないのが実態である。

本学で確立したEAB(Ethics Across the Business)概念に基づき、意識調査による従業員の意識・行動と認識の定量的把握を切り口とする、企業倫理プログラムの推進が、企業活動における倫理レベル向上のために有効である。



(a) Conventional type (従来の取り組み)



(b) EAB type (EABIによる取り組み)

- Business person
- Assigned ethics person
- ⊕ Ethical business person

従来は、企業倫理活動は、企業が指名する担当者によるピラミッド構造により、推進されてきた。EAB (Ethics Across the Business) 概念による推進は、全員参加の事業活動密着型活動と、各組織の中核人材間の有機的連携によって行われる。

KITでは教育面でも企業活動面でも、科学技術応用倫理の研究と実践を積極的期に進めている。それぞれの側面での知見を有効に組み合わせることにより、有効性の高い企業倫理、研究倫理プログラムの構築が可能となっている。



大来 雄二 客員教授

所属研究所：科学技術応用倫理研究所  
米国マサチューセッツ工科大学修士課程修了。昭和44～平成12年(株)東芝、平成12～18年東芝総合人材開発(株)。平成18年本学客員教授就任。

Keyword

技術者倫理 / 企業倫理 / 技術経営